



# 大 地

令和7年12月号

校長 指崎 邦久

先日、降ってくる雪を楽しそうに追いかけたり、積もった雪で雪玉を作ったりする子供がいました。登校時に、傘を持たない下級生を自分の傘に入れながら歩く子供もいました。元気な姿や、優しい姿に心が温かくなりました。

2学期ももう残り少なくなっています。師走と言われるように、慌ただしい日々を実感していますが、子供たちには、2学期の残り少なくなった時間を大切にして、新しい年を迎える準備をしてもらいたいと思っています。

## 新しい校舎

4月から仮設校舎で学習をしてきた1・3・5年生が、12月1日（月）から新しい校舎での学校生活を始めました。新しい校舎をきれいに使おうと、各学年で話をしました。きれいになったトイレや壁がいつまでもきれいなままでいるようにと話し合っていました。将来、自分たちの子供が入学してきたときも、きれいな校舎であるように、使いたいという声も聞かれました。大切に使いたいと思います。

### 学年での話し合い



## 生き生き窪っ子 いろいろな場面で生き生きと活動する窪っ子の様子を紹介します

### 3年生

3年生は、総合的な学習の時間で、ねぎの栽培・販売に取り組んでいます。ねぎ販売の会社「窪ねぎねぎカンパニー」を立ち上げ、いろいろな部署に分かれて、イメージキャラクターをデザインしたり、販売促進のうちわを作ったりと準備をしてきました。12月6日（土）にはJA窪支所のみなさんの力を借りて、JAグリーンひみでねぎの販売体験を行いました。法被を着て、元気よく声を出したり、買ってくださった方に笑顔でねぎを渡したりと普段の学校では決してできない体験をたくさんすることができました。週明けには、明るい表情で楽しかったと報告してくれました。

心に残る体験になったようでした。



### 6年生

12月1日（月）に氷見ひかり保育園へ、5日（金）に海清保育園へ6年生が訪問しました。訪問では、トランプやボールで一緒に遊んだり、ペーパーサートでの劇を発表したりしました。準備をしているときは、小さな子供に分かるようにと言葉を選んだり、無理のない活動になるようにと気を配ったりしていました。園児と一緒に遊んでいる表情は明るく優しいものに感じました。

6年生の優しさが生かされた体験でした。



## ネット対策フォローアップ事業

氷見市教育総合センターのネット対策フォローアップ事業の一環として、4～6年生を対象に11月21日（金）に、ソーシャルメディア研究会の竹内義博先生を講師に招いて、ネットトラブル防止講演会を行いました。

講演の中で、「SNSはニュアンスが伝わりにくく誤解が生じやすい」「ネット上の相手は顔が見えずどんな人が見ているか分からない」「気を付けないとやり過ぎて健康被害が出る恐れがある」という三つのことを中心に話をいただきました。

小学生がトラブルに巻き込まれる事例に関する動画を見た子供の中から、「写真を送らなければトラブルに巻き込まれなかつた」「SNSでは、気を付けて書き込んだり、確認したりしなければいけないと思った」という感想が聞かれました。11月21日の本校HPにも掲載したのですが、講演後の竹内先生との話の一部を再度紹介します。

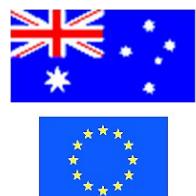


1. スマホで撮った写真には配置情報が盛り込まれている。背景に何も映ってなくとも50m程度の違いも分かるレベルで撮影場所が分かる。
2. 大人の気付かないところでのやり取りがあり、大人が知らない間に事件に巻き込まれそうなことがたくさんある。
3. 新聞で報道されたり、警察で事件として取り上げられたりしていないたくさんの事案があり、被害者の泣き寝入りで終わっている。

子供たちの予想もつかないところで、事件やトラブルに巻き込まれる恐れがあることがよく分かりました。子供の、安全で安心できる生活のために、スマートホン等を適切に使用できるよう、見守ってあげてください。

## SNSに対する危機感

先日、オーストラリアで16歳未満のソーシャルメディア利用を禁止する法律が施行されました。この法律については、各種報道でも取り上げられ、いくつかを目にしました。中には、この法律が保護者から高く支持されていると紹介するイギリス国営放送(BBC)のニュースがあり、その理由としてネットいじめ等の減少につながることを期待しているからだろうと述べていました。



オーストラリアの他にも、EUがSNSを利用できる最低年齢を16歳とする提案を賛成多数で採択したという情報や、デンマークやマレーシア、シンガポール、ギリシャ、ブラジル等がオーストラリアの新法を試験的事例として注視しているという報道もみられました。

このような法律の施行に対して賛否両論がみられます。確かに、知識や判断力が未発達な未成年を守る必要があります。その一方で利用を制限するだけでよいのだろうかという思いもあります。世の中の情報を中心とした産業構造は今後目まぐるしく変化していきます。子供たちは、変化の激しい社会で生き抜いていかなくてはなりません。情報機器を全く利用せずに過ごすことは難しく、情報機器を適切に活用する力を正しく育てる必要があります。何よりも、一時の興味関心に流されない確かな価値観を育てなければなりません。

広い知識をもち、周囲との関連を考慮し、先を見通すことができるわたしたち大人が子供を見守り、時には厳しく管理する必要があると考えています。

間もなく、冬季休業が始まります。子供たちにはSNS等間接的なつながりだけでなく、家族と一緒に過ごす時間の楽しさや温かさをたっぷりと味わってもらいたいと思います。